

令和2年度 部局経営目標（達成状況）

| | | | |
|-----|-------|------|-----------|
| 年度 | 令和2年度 | 作成日 | 令和3年3月31日 |
| 部局名 | 生活環境部 | 部局長名 | 澤山 誠一 |

（1）部局の役割・使命（ミッション）・経営方針

■「共生社会まにわ」、「男女共同参画社会」の形成推進【No.5：ジェンダー平等を実現しよう】

・全ての人が尊重され、平和で明るく住みよいまちに向けて、人権教育・啓発や、男性も女性もともに輝く社会の実現に努めます。

■安全安心のまちづくり【No.11：住み続けられるまちづくりを】

・市民生活の安全安心を高めるため、市民とともに地域防犯力の強化と、困りごとや、ひきこもりなどの新たな相談に対する体制強化に努めます。

■安定した国民健康保険事業の維持と医療費の適正化【No.3：すべての人に健康と福祉を】

・医療・福祉とスポーツなどの一層の連携を図り、予防・健康づくりを推進し、医療費の適正化を進め、国民健康保険事業の安定化を図ります。

■地域循環共生圏の創造と環境学習・SDGsの推進【No.17：パートナーシップで目標を達成しよう】

・自然や文化、人の暮らしを生かした賢く成長し進化する自律的な共生圏を、上流と下流・里山と里海との連携を進めながら市民とともに創造し、SDGsの理念に沿った、環境学習の一層の充実やクールチョイス普及啓発事業を推進します。

■資源循環型社会の実現とエネルギーエコタウン真庭の推進【No.7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに】

・生ごみ等を原料とした液肥の農業利用促進と、資源化施設建設事業をすすめ、バイオマス発電や小水力発電など自然再生エネルギーによる地域エネルギー自給率100%、「エネルギーエコタウン真庭」の実現に向けた取り組みを推進します。

■持続可能な廃棄物処理の仕組みづくり【No.12：つくる責任、つかう責任】

・真庭市の廃棄物処理の現状と課題を市民に周知しながら、老朽化している施設・設備の延命化と管理運営の最適化に取り組みます。

■利便性と回遊性のある公共交通環境の整備【No.11：住み続けられるまちづくりを】

・市民生活にとって便利で循環性のある「まち」を目指し、まにわくんの抜本的な見直しによる安定的な運行と「共助による地域のあし」の構築による地域内交通の充実、さらに高速バス・JR等との接続性向上、利用促進等に取り組みます。

■スポーツや文化を楽しめる環境づくりと交流促進及び地域振興【No.4：質の高い教育をみんなに】

・誰もが気軽にスポーツや芸術・文化に触れる機会を提供し、自主的な市民の参加と関心を高めます。さらに、関係団体の支援や人材育成、スポーツ・文化を通じた共生社会の推進などに積極的に取り組み、併せて外部に情報発信することにより、交流・関係人口の獲得に繋がります。

| (2) 事業成果目標 | 指標名及び目標値 | | | |
|---|------------------|-------|--|---|
| <p>●人権教育、啓発活動の実施 法務局・人権擁護委員や人権教育推進委員と連携を取りながら、小学生を対象とした「人権の花運動」、「人権スポーツふれあい教室」や、一般を対象にした「人権教育講演会」の開催、「人権啓発パンフレット」の作成、さらに、DVと児童虐待廃絶に向けて、庁内関係部署の共同による「オレンジ&パープルリボン・ライトアップ運動」など、効果的な人権啓発事業を積極的に進めます。</p> | 指標: 講演会・研修会の参加者数 | | | |
| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 次年度への課題 |
| <p>●男女共同参画の推進 第4次基本計画策定において、「男女共同参画社会の実現」を共生社会まにわ実現のための重要な要素の一つとして位置付け、政策体系を整える。また、女性の視点や意見、能力が男性と等しく活かされるよう、政策形成や地域づくりの場へ女性が参加し易い仕組みと意識づくりを進めるため、審議会等の女性委員の登用状況について、全課の登用目標達成に向けて引き続き推進する。</p> | 700人 | 250人 | <p>コロナウイルス感染症拡大の影響により中止又は規模縮小により実施した。 ・コロナ差別への重点対応として、感染防止対策を取りつつ人権相談を継続し、パンフレット・チラシその他広報手段により、差別防止啓発を行った。 ・人権スポーツふれあい教室は、一部の学校で次年度に延期した。 ・人権講演会は、感染予防対策として定員を230人に縮小して開催した。 ・DVと児童虐待根絶に向けた「オレンジ&パープルリボン、ライトアップ運動」を実施した。</p> | <p>人権スポーツふれあい教室や人権講演会及び啓発活動など、参集や接触を伴う事業は、コロナ感染症の状況を鑑みながら、関係機関と丁寧な協議のうえ実施する。</p> |
| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 次年度への課題 |
| <p>●男女共同参画の推進 第4次基本計画策定において、「男女共同参画社会の実現」を共生社会まにわ実現のための重要な要素の一つとして位置付け、政策体系を整える。また、女性の視点や意見、能力が男性と等しく活かされるよう、政策形成や地域づくりの場へ女性が参加し易い仕組みと意識づくりを進めるため、審議会等の女性委員の登用状況について、全課の登用目標達成に向けて引き続き推進する。</p> | 指標: 女性委員の割合 | | | |
| | 30.06% | 30.7% | <p>女性の活躍推進に向けた成果指標を盛り込んだ、第4次基本計画(あい・プランまにわ)を策定した。 また女性委員登用推進の結果、登用率は第3次計画の目標値(30%)を達成した。 ・10月に各部署における女性の登用状況/目標設定調査を実施。 ・11月理事者会で調査結果の報告と、委員改選における積極的な女性登用を推進。</p> | <p>継続的に女性委員の登用状況について把握し、推進する。 必要に応じて設置条例や規程の改正を伴うことが想定されるため、調査時期及び関係部署への推進を早めに行う。</p> |

| | | | | |
|--|---------------------|--------------------------|---|---|
| <p>●青少年に対する主権者及び消費者教育の強化</p> <p>若者に主権者として責任ある判断と行動を取る意識づくりを行うとともに、真庭市の良さを再確認してもらい、市民の一員として真庭市に関わり、地域のさらなる発展に貢献する意識向上のために、①「20歳の集い（成人式）」を実施します。</p> <p>また、成年年齢引き下げ（2022年4月施行）に先立ち、消費生活センターにおいて、市内6中学校の3年生を対象とした②「出前講座」を開催し、若い世代への消費者教育の充実を図ります。</p> | 指標：①式典参加率 ②出前講座開催回数 | | | |
| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 次年度への課題 |
| | ①80% ②5回 | ①0%（開催できず） ②0回（実施できず） | <p>コロナウイルス感染症拡大の影響により実施を変更した。</p> <p>①20歳の集いは、3会場分散型、映像相互配信による方式を行うこととしていたが、市内クラスター発生により、R3.5月2日にやむなく延期した。</p> <p>②出前講座については、コロナの影響で各校が実施を見合わせたため、真庭市消費生活センターオリジナルの啓発冊子を作成し活用するなど、非対面方式の啓発を行った。</p> | <p>①R3年度は、延期となっている「R2年度分20歳の集い」と「R3年度分20歳の集い」の2回分を開催する。</p> <p>②若い世代への消費者教育の充実は、目前に迫った成年年齢引下げを考えたにも被害の未然防止のために重要であり、講座の内容を始め、より効果的な方法で継続実施する。</p> |
| <p>●地域防犯パトロールや見守り活動</p> <p>市民生活の安全安心を高めるため、真庭市青少年育成センターを中心に、地域、学校、警察、行政及び地域見守りネットワーク「まにわのわ」など関係団体と連携し、地域防犯パトロールや見守り活動等の一層の充実を図ります。</p> | 指標：パトロール実施回数 | | | |
| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 次年度への課題 |
| | 850回/年 | 750回/年 | <p>パトロール回数の減少は、コロナ下であったこともあるが、</p> <p>①外で遊ぶ子ども減少</p> <p>②バス通学エリアの拡充（北房地域の小学校統合等）の影響による。</p> | <p>子どもの数も減り続けているが、『子どもたちは地域からはぐむ（真庭市青少年健全育成方針）』のもとに、今後とも関係機関で連携し、見守りを続けることが肝要である。</p> |

| | | | | |
|---|---|---|--|---|
| <p>●生活総合相談支援室の推進 令和2年度機構改革により、生活総合相談窓口の機能強化を目的とし設置された「生活総合相談支援室」のについて取り組み課題を明確にし、庁内外に周知し推進する。</p> <p>〈取り組み課題〉①新たな相談課題への対応、②専門相談との連携強化と内容の充実、③相談体制の維持・発展(誰も取り残さない相談支援体制の整備)、④市民への周知・情報提供。</p> <p>●「生活総合相談窓口」の充実・周知 支援室の取り組み課題を踏まえ、引き続き庁内外連携による相談対応を行う。昨年度完成した「やさしいチラシ」を活用した相談勧奨を推進する。</p> <p>●「消費者安全確保地域協議会」を設置し、地域見守り体制の推進を図る。</p> | <p>指標：①庁内会議の開催、②新たな相談課題の検討会議、③市民講座受講者数及び満足度④「消費者安全確保地域協議会」の設置</p> | | | |
| | <p>目標値</p> <p>①2回、 ②4回、 ③60人、 80%、 ④1</p> | <p>実績値</p> <p>①1回、 ②2回、 ③40人、 94%、 ④0</p> | <p>評価</p> <p>市民に生活の変化と大きな不安を与えた新型コロナウイルス対策として、特別定額給付金対策室と新型コロナウイルス総合相談窓口を設置し、迅速な給付金事務と丁寧な相談対応及び情報提供を行った。また、給付金詐欺防止対策や相談対応を行った。また、市民講座参加者満足度は非常に高く、相談の周知と困りごと解決に役立った。</p> | <p>次年度への課題</p> <p>生活総合相談窓口の機能強化と、新型コロナウイルス総合相談窓口対応を継続し、市民生活の困りごとやコロナ感染症の不安に対応する。</p> <p>また、消費者安全確保地域協議会における取り組み等を整理し、設立する。</p> |
| <p>●健康づくり、健康寿命の延伸 第三期特定健康診査等実施計画の目標の達成を目指して、特定健康診査・特定保健指導において、受診率の低い40歳～50歳代の対象者に対して、重点的に受診勧奨を行うことや人間ドック、J A健康診査等の健診結果の情報提供、また、医師会との協力により、健診データの提供を受けることで、一層の受診率の向上を図ります。</p> <p>さらに、健診結果説明会を開催し、より特定健診等への関心を持ってもらい、継続的な受診につなげていきます。</p> <p>また、健康づくりへのインセンティブとして、健康ポイント制度を平成31年度から創設し、参加者の応募を募っています。チラシや賞品カタログをPRに活用して参加者の増加を図るとともに、医療・福祉とスポーツ、介護予防、生活習慣病予防との一層の連携を進め、健康づくりや健康寿命の延伸につなげていきます。</p> | <p>指標：①健康ポイント事業への参加者数 ②特定健診等の受診率 ③特定保健指導の実施率</p> | | | |
| | <p>目標値</p> <p>①1,500人 ②48% ③36%</p> | <p>実績値</p> <p>①991人 ②36.7% (R1実績) ③10.2% (R1実績)</p> | <p>評価</p> <p>・医療機関からの検査データ提供事業を開始した。 ・健診結果説明会を個別情報冊子作成に内容を変更し実施した。 ・岡山県国保ヘルスアップ事業に参加に効果的な受診勧奨を実施した。 ・健康ポイントの参加者は大幅な増加はなかったが、健診等へのきっかけづくりとして少しずつ浸透してきている。</p> | <p>次年度への課題</p> <p>・特定保健指導未利用者への積極的な勧奨を行う。 ・特定健診の新規受診者の獲得と、継続的な受診を促す対策。 ・健康ポイント事業は、賞品を一部見直し、引き続き健診受診、健康づくり行事参加へ繋がるよう更なる参加者の増加を図っていく。</p> |

| | | | | |
|---|-------------------|---------------------------|---|---|
| <p>●医療費の適正化</p> <p>国保被保険者を対象にした第三期特定健康診査等実施計画及び第2期データヘルス計画の目標の達成を目指して、「特定健康診査」の実施や医療・健診データを活用した保健指導、重複服薬者への取り組み、ジェネリック医薬品の普及啓発による予防・健康づくりの推進、さらに医師会や関係団体等と連携した効率的な医療提供体制の構築などで医療費の適正化を進め、国民健康保険事業の安定と制度の持続向上に努めます。</p> <p>高額療養費支給申請書などに適正化の啓発資材を定期的に同封することで、医療費への関心を高め、適正化に努めます。</p> | 指標：ジェネリック医薬品の使用割合 | | | |
| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 次年度への課題 |
| | 80% | 79.4% | <ul style="list-style-type: none"> ・ジェネリック医薬品の使用割合が向上した。 ・重複多剤服薬者への面談を実施した。 ・医療費適正化に関する啓発資材を被保険者に配布した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ジェネリック医薬品の更なる啓発。 ・衛生部門との連携強化。 |
| <p>●水質調査、かいぼり調査 ●トンボの森事業等 ●かきからプロジェクト、小学校連携等 ●里海との連携（渚の交番）</p> <p>水質保全や河川環境保護、景観づくりなどの観点から、真庭市中心部を貫く「旭川」清流化の機運醸成を促す「水質一斉調査、かいぼり調査、トンボの森づくり事業」などを、岡山連携中核都市圏の中心でもある岡山市を始めとした、下流域の自治体や関係団体と連携して実施します。</p> <p>また、環境保全や人の暮らし文化を生かした、多彩で持続的な循環型社会構築に向けて、森里川海の関係を見つめ直し、中でも瀬戸内海とのつながりを強化し、地域循環共生圏の創造を目指します。</p> <p>〈地域循環共生圏構想で目指すところ〉</p> <p>①グリーン・レジエンスによる災害に強い強靱な社会基盤の構築、②エネルギーや水、食料などの生存に不可欠なものが自給可能な地域の構築、③豊かな自然の維持、④健康で多彩なライフスタイルの実現、⑤ひとものの地域間の自由な移動の保証、⑥環境と共生する新しい経済活動、ESG投資などの呼び込み</p> | 指標：交流者数 | | | |
| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 次年度への課題 |
| | 400人 | 33人 (バスツアー16人、水質調査17人) | <ul style="list-style-type: none"> ・水質調査は実施した。 ・かいぼり調査、トンボの森はコロナの影響ですべて中止とした。 ・里海里山連携は、海ごみ事業と関連付けをおこない、「川ごみ海ごみ探検ツアー」を開催した。 | 瀬戸内側だけでなく、山陰側との連携の可能性を検討していく。 |

| | | | | |
|---|-------------------------------|----------------------------------|--|---|
| <p>●自然環境の保全 ●市民運動の機運醸成 ●環境学習プログラムの作成 ●岡山市・大学連携等の推進 ●学校や市民団体と連携した環境学習の充実</p> <p>SDGs・ESDの理念や第2次真庭市環境基本計画に基づいて、まちづくり、人づくりのための環境学習を、学校や市民団体、さらに岡山市や岡山大学などのESDの先進地等と連携しながら、市民運動として強力に推進し、自然と共生する真庭市ならではのライフスタイル創造につなげます。</p> <p>また、真庭オリジナルの環境学習プログラムを活用して、より多くの人々が学習から得た学びを日常生活に活かし、4R運動やごみの減量化などに取り組んでいけるよう、学校や市民団体と連携し実践の場を増やします。</p> <p>さらに、真庭市環境衛生協議会を中心に、住民の皆さんと共に「住み続けたいまち」「住んでみたいまち」と思えるような地域を目指し、地域美化活動やごみ減量化、河川ごみ対策として不法投棄パトロール等の啓発・実践に取り組みます。</p> | <p>指標：①環境学習開催数、②環境パトロール回数</p> | | | |
| | <p>目標値</p> | <p>実績値</p> | <p>評価</p> | <p>次年度への課題</p> |
| | <p>①55回 ②20回/年</p> | <p>①47回 (739人) ②2回/年</p> | <p>・環境学習は、学校側のコロナ対策の協力を得ながら、概ね実施できた。 ・大学や市民との連携はコロナの影響を鑑み実施しなかった。 ・環境パトロールは、コロナの影響から、2回のみ開催となった。</p> | <p>・環境学習は非常に好評をいただいております、更に分かりやすい講座内容にしていくよう検討していく。</p> |
| <p>●再生可能エネルギーによる「エネルギーエコタウン真庭」の推進 ●クールチョイス・マイクロ水力、小水力発電の推進</p> <p>生活様式の見直しと合わせてエネルギー効率を高め、電力需要そのものを抑制し、再生可能エネルギーが市民レベルも含めて開発、提供される、「分散型エネルギー循環システム」確立を目指し、マイクロ・小水力発電の立地に取り組み、身近な資源で電気を作ることができるという認識を市民に広げます。</p> <p>また、3割を超えている地域のエネルギー自給率を更に高めるとともに、地球温暖化を防ぐためのクールチョイスの普及啓発事業を進めるなど、省エネルギー施策も加速させ、地域エネルギー自給率100%「エネルギーエコタウン真庭」達成を目標に関係部署や大学・研究機関等と連携して、真庭市らしい環境先進都市の構築を目指します。</p> | <p>指標：①小水力発電所設置可否判断</p> | | | |
| | <p>目標値</p> | <p>実績値</p> | <p>評価</p> | <p>次年度への課題</p> |
| | <p>1回</p> | <p>1回</p> | <p>・津黒川において設置の検討を行った。結果、河川水量が少ないため、設置は不適との判断であった。</p> | <p>・適地を再度検討する。</p> |

| <p>●「真庭エコライトCITY事業」の推進 資源消費削減や省エネルギー、地球温暖化対策の取組みの一環として実施している「真庭市エコライトCITY事業」については、順調に事業が進捗しており、市が維持管理する防犯灯については、今年度末までに全件LED化できる見通しとなりました。また、自治会管理の防犯灯においても全てのLED化を目指し、引き続き事業を推進します。公共施設の照明についても早期の100%LED化を目指し、電気代の削減や低酸素化、市内地域がより明るくなることによる市民の安心安全につなげていきます。</p> <p>(R2年度LED化目標：①市管理分 504/685基(R1年度末)→685/685基 ②自治会管理分 約2,800/約5,300基(R1年度末)→約3,400/約5,300基)</p> | 指標：防犯灯LED化率 | | | |
|--|-------------------------------|-------------------------------------|---|--|
| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 次年度への課題 |
| | 市防犯灯 100% 自治会防犯灯 64.2% | 市防犯灯 100% 自治会防犯灯 64.9% | <p>①市管理分は、R2年度は勝山・湯原地区の工事をを行い、全地区においてLED化を完了し、目標値を達成した。5年間のサンセット事業だったが、順調に進捗し、1年前倒しの完了。</p> <p>②自治会分は、R1に行った設置要望調査に基づき、各自治会への補助金を交付し改修を推進、目標値を達成した。</p> | <p>①市管理防犯灯については、100%改修したため、目標設定は終了する。</p> <p>②設置要望調査に基づき、予算の範囲内で自治会管理分のLED化を進めているが(R3終了予定)、一部に過疎・高齢化のため改修を希望していない自治会もある。自治会負担も伴うことであるため、改修率100%は難しい。</p> <p>③通学路の防犯灯について、3年度から設置管理を開始する。</p> |
| <p>●生ごみ等資源化施設建設の推進 ●バイオ液肥の利用促進 ごみ減量化による様々な行政コストの低減やバイオマス資源の活用による地域活性化など、真庭市を持続可能な「まち」として子や孫たちに伝えていくために、市の重点施策として推進している「生ごみ等資源化事業」について、今年度は建設業者の選定を行います。</p> <p>あわせて、液肥スタンド等の拡充、新規利用農家の開拓、利用作物の研究などによる利用促進とPRを進めます。</p> <p>また、生ごみを出す市民、液肥を利用する農家、液肥野菜等を販売・提供する小売店、飲食店等のネットワークづくりにも取り組みます。</p> | 指標：①施設の操業開始②生ごみ収集量③バイオ液肥利活用面積 | | | |
| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 次年度への課題 |
| | ①令和6年度内②360 t ③21ha | ①1月に優先交渉権者を選定した。 ②320 t ③18ha | ・建設事業者の選定は優先交渉者の選定は実施できたが、技術面の確認に時間を要した。 | ・技術面の確認を早急に行い、契約を行う。 |

| | | | | |
|---|------------------------------|-------------------------------|---|---|
| <p>●廃棄物処理の現状や課題の市民への周知 真庭市の廃棄物処理の現状と課題をわかり易く市民に伝え、SDG s の理念普及と持続可能な廃棄物処理の仕組みを市民が考え実践するきっかけづくりとするために実施した「ごみの行き先確認ツアー」、「廃棄物処理施設見学会」、「PR事業」などを継続・発展させていきます。 また、広報紙、SNS等も活用し、イベントの開催以外の周知方法も充実させます。</p> | 指標：参加者数 | | | |
| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 次年度への課題 |
| | 400人 | 450人 | ・コロナの影響により、バイオマスツアー客は激減したが、SDG s ツアーなど、地元や周辺自治会からの参加が増えた。 | ・SDG s の理念を分かりやすく伝えられるような機会づくりを行っていく必要がある。 |
| <p>●環境衛生施設の維持・更新 旭水苑、各クリーンセンター、最終処分場などの環境衛生施設の維持については、適正な維持管理はもとより、生活様式の変化や新技術などの動向を注視しつつ、生ごみ等資源化施設整備の進捗状況に合わせて、市内施設の質と量の最適化に取り組みます。 新規最終処分場については、残容量が残り少なくなっており、最終処分場の役割、必要性を十分に周知し、建設候補地の選定に向けて鋭意取り組みます。 また、施設再編に向けて、「廃棄物減量等推進審議会」による再編計画の決定を目指します。</p> | 指標：再編計画の作成 | | | |
| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 次年度への課題 |
| | 年度内作成 | 未作成 | ・再編計画書の作成は、協議により令和3年度での作成する事とした。 | ・クリーンセンターの統合計画だけでなく、リサイクルプラザの在り方や有害鳥獣の処理についても検討が必要。 |
| <p>●市内生活交通の計画見直し ●共助による地域のあし確保に関する検討及び実証 真庭市公共交通の指標となる「地域公共交通網形成計画」を改定し、市民生活にとって便利で効率のよい交通を目指します。 また、「真庭市共助による地域のあし確保に関する方針」に基づき、市や事業者の役割分担の明確化や、地域主体で地域の特性にあった具体的な事業形態の検討・実施、地域や事業者が行う運送事業の支援制度を検討して、行政、地域、事業者が互いに補完・代替できる効率的な「共助による地域のあし」の構築を進めていきます。 枝線に代わる有償運送実施地区（モデル）として二川地域の支援を行いながら、他の地域への横展開も図っていきます。（当面は落合地域での実施に向けて地域と協議・検討をしていきます。）</p> | 指標：①計画検討会議、②地域運行検討会議、③運行検討地域 | | | |
| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 次年度への課題 |
| | ①5回 ②6回 ③1地域 (落合地域) | ①7回 ②16回 ③1地域 (落合地域) | 公共交通網形成計画から交通マスタープランに改定を実施、 今後、運行計画の柔軟な見直しが可能となった。 二川地区では、R1より検討を重ね、R2年6月より地域運行を開始した。 津田地区では、6月から検討を開始し、R3.4月より運行開始した。 | ・幹線枝線の効率化の推進に向けた関係部署や関連企業との連携。 ・地域運行等新たな運行形態の需要の検討や、導入に向けた丁寧な支援の確立等。 ・地域運行を実施する地域の体制構築。 |

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| <p>●「まにわくん」の利便性向上 ●ナイトまにわくんの実施</p> <p>バリアフリー対応のノンステップバスを、令和2年度も1台導入し、バリアフリー化の向上を図ります。</p> <p>また、Google mapでのWEB検索による乗り継ぎ情報の取得が可能となり、バスロケーション・システム「バスなび」の運用とともに、システムの機能を最大限活用し利用者の利便性向上を図り、利用者増に繋がります。</p> <p>さらに、高齢者の免許返納による「愛カード」の取得を促し、バスの利用促進と安全安心な生活に繋がって行きます。</p> <p>そして、本年もジュニアパスポートを実施し、「まにわくん」の利用の促進と交通環境学習やモビリティマネジメントに取り組みます。 (小学生200人 中学生100人)</p> <p>ナイトまにわくんの実施については、人口減対策や地域の経済効果を促すことを目的に、コミュニケーションや出会いの場の創出を促すため、帰宅支援として夜間帯に「まにわくん」を運行します。各地域のイベントなどとも連携した運行として、年6回程度の試行運行を行います。</p> | <p>指標：①愛カード取得者、②ジュニアパスポート申請者、③ナイトまにわくん運行回数、④ナイトまにわくん利用者数</p> | | | |
| | <p>目標値</p> <p>①150人 ②300人 ③6回 ④270人</p> | <p>実績値</p> <p>①153人 ②105人 ③2回 ④44人</p> | <p>評価</p> <p>バスなびやweb検索の拡充によって利便性が向上、観光客等へも対応可能となった。</p> <p>ジュニアパスポートは同伴者1名を無料としたが、コロナ下の移動自粛傾向により、申請者数は少なかった。</p> <p>同様にナイトまにわくんでも、イベントの中止や縮小などにより、計画通りの運行が難しい状況となった。</p> | <p>次年度への課題</p> <p>キャッシュレス決済等の新たな機能の導入に向けた協議検討に向けた関係部署との連携、事業者との調整等が必要。</p> <p>モビリティマネジメントや各種イベントにおける関係者との連携強化。</p> |
| <p>●既存高速バス、JR等の利用促進</p> <p>高速バス・路線バス運行事業者、JR西日本等と協議を通じて、市民の高速勝山線利用を増加させる方策について模索し、環境にやさしい交通環境やモビリティマネジメントの促進、さらに地域間交流促進と地域活性化に繋がります。</p> | <p>指標：高速勝山線利用者数</p> | | | |
| | <p>目標値</p> <p>45,000人</p> | <p>実績値</p> <p>20,371人</p> | <p>評価</p> <p>広域公共交通の利用者は、コロナ下での学校休校や移動自粛の影響で激減した。コロナの影響が長期間となったため、高速勝山線は目標値を大きく下回る実績で、広域路線バスの運営維持が困難な状況(経常収益額÷経常費用額≤11/20)となったため、真庭市地域間幹線系統補助金により支援した。</p> | <p>次年度への課題</p> <p>コロナによる影響は現在も少なからず続いているが、感染予防対策を取りつつ、利用実績が回復するよう、引き続き事業者と連携して利用促進に努める。</p> |

| | | | | |
|---|-------------------------------|--|---|--|
| <p>●スポーツ振興体制の充実</p> <p>・真庭スポーツ振興財団を核としたスポーツ振興の充実</p> <p>引き続き、真庭スポーツ振興財団を中心として、総合型スポーツクラブなど各スポーツ関係団体と連携したスポーツ振興を推進していきます。</p> <p>・真庭市スポーツ振興計画策定</p> <p>現在の真庭市スポーツ振興計画（ビジョン）（2016-2020）は計画の期間が令和3年3月31日までとなっています。このため、令和2年度中に次期計画(2021-2025)を策定します。</p> <p>計画策定にあたり、次期総合計画の策定期間にも重なるため、より総合計画に準じた内容のものを策定していきます。</p> <p>スポーツ基本法に基づき国が定めた第2期スポーツ基本計画（2017-2021）を踏まえつつ、真庭市の実態に即した特色ある計画の策定を目指します。</p> | <p>指標：事業、計画策定</p> | | | |
| | <p>目標値</p> | <p>実績値</p> | <p>評価</p> | <p>次年度への課題</p> |
| | <p>2事業、1計画</p> | <p>2事業、1計画</p> | <p>・真庭スポーツ振興財団を中心としたスポーツイベントとして、子どもから高齢者、障がいのある人、誰もが参加できるイベントとして、ポッチャ大会とユニバーサルスポーツフェスティバルを行った。共生社会の実現に向けた取組として誰でも気軽にスポーツに関わることができた。</p> <p>・真庭市スポーツ推進審議会委員やその他関係者への意見聴取を行い、各種方面からの意見を取り込み、真庭市スポーツ推進計画を策定した。</p> | <p>・東京2020オリンピックパラリンピック開催の年でもあり、引き続き市民のスポーツへの関心やパラスポーツへの理解を深める取組を行い、機運を盛り上げていく必要がある。</p> <p>・計画を市民に周知させるとともに、実践していく工夫が必要となる。</p> |
| <p>●学校や地域におけるゴールデンエイジ期のスポーツ文化機会の充実</p> <p>①「芸術アウトリーチ事業」 ②「運動遊び派遣活動」 ③幼児体操教室の実施</p> <p>子供の頃から文化・芸術に触れ親しむことは、将来において優れた感性を育むことにつながり、またスポーツを通して体を動かす楽しさや喜びを覚えることで、心の成長と体力の向上や運動神経の発達につながります。</p> <p>このため、市内の小・中学生等を対象に質の高い音楽、演劇、伝統工芸、伝統芸能などに触れる機会や、幼児期から支持運動やマット運動をする機会を提供する派遣活動や教室を実施し、さらに指導できる人材育成を進めます。</p> <p>また、普段芸術文化に触れる機会の少ない社会福祉施設入所者などへのアウトリーチや鑑賞機会の提供も積極的に行います。</p> <p>さらに、子どもたちから大人への波及効果により、市内全体の芸術文化、スポーツへの関心を高めることで、より一層の振興を図っていきます。</p> | <p>指標：①参加人数、②指導件数、③人数</p> | | | |
| | <p>目標値</p> | <p>実績値</p> | <p>評価</p> | <p>次年度への課題</p> |
| <p>①1,000人(新型コロナウイルスの影響を考慮) ②10件 ③20人</p> | <p>①948人 ②3件 ③20人</p> | <p>・コロナウイルス感染症の影響により、ホールでの鑑賞型アウトリーチ事業が中止となったり、幼児対象の「運動遊び派遣活動」への依頼件数が少なかった。</p> <p>・幼児体操教室も、5月開始予定が7月にずれ込み、予定日数より少なかったが実施できた。</p> <p>・学校や地域におけるゴールデンエイジ期のスポーツや文化芸術を体験する機会を提供することは、心の成長と体力の向上や運動神経の発達及び豊かな心を育み創造力の涵養につながるため、引き続き行っていく。</p> | <p>・コロナ禍での実施にあたっては、感染症予防を徹底する必要がある。</p> <p>・市内全校で実施するためには、早期のスケジュール調整やプログラムの質の担保が必要である。</p> <p>・幼児体操教室は人気があり、全市から希望がある。講師の確保と今後の事業委託が課題である。</p> | |

| | | | | |
|--|--------------------------------|--|---|--|
| <p>●明治の学び舎（旧遷喬尋常小学校）活用検討事業</p> <p>・真庭市の貴重な文化遺産である国指定重要文化財の旧遷喬尋常小学校。平成30年、令和元年の2か年にわたり、校舎整備・活用検討委員会において、全国的な視点から近代教育遺産としてふさわしい整備の在り方、併せて、真庭市の価値ある地域資源としての活用方策について検討し、提言書にまとめました。この提言書を尊重しながら、保存修理に向けての市民意識を広げるためのシンポジウムを開催します。</p> <p>・旧遷喬尋常小学校に親しんでいただくイベントなどを通じて、市民が文化財に親しむ機会を増やす。</p> <p>・パンフレットやHPを活用して、市内外に新たなファンとリピーターを獲得し、旧遷喬尋常小学校を核として真庭市の地域価値を高めます。</p> <p>・校舎を利用した事業（子どもの歴史学習、学生の企画による活用、各種イベント等）を実施します。</p> | 指標：シンポジウム開催 | | | |
| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 次年度への課題 |
| | 1回 | 1回 | ・シンポジウムの開催ではなかったが、旧遷喬尋常小学校の設計を行った宮大工の江川三郎八にちなんで、江川式建築の建築模型・建築パネル展と講演会を開催した。それにより旧遷喬尋常小学校への付加価値をつけることにつながった。 | 旧遷喬尋常小学校の整備・活用に向けて、文化庁や岡山県文化財担当部署や、専門機関などと協議を重ね、保存改修工事に向けて取り組む必要がある。 |
| <p>●多様な文化交流の取り組み</p> <p>①地域住民、芸術家、大学等教育機関との連携・交流をしながら映像について学ぶことができる、まにわ映像カレッジなどの事業を実施し、文化によるまちづくり、人づくり、関係人口の増加に繋がっていきます。</p> <p>②第18回おかやま県民文化祭文化がまちにある！プログラムに真庭地域で取り組み、地域団体と協力しながら多数の文化イベントを開催し、文化によるまちづくり、人づくり、関係人口の増加に繋がっていきます。</p> <p>③蒜山地域に整備するCLT建築物の一部を隈研吾氏作品の美術館とする案があり、これに合わせて真庭の文化資源や生活の中にある文化の魅力を市内外に効果的に発信できる仕組みづくりを検討していきます。</p> <p>④外国人アーティスト交流事業やドイツ文化に関する事業を行うなど、海外の文化に触れることができる機会をつくり、国際的な視野を持つことができる人づくりに取り組んでいきます。</p> <p>⑤岡山中核連携都市圏に参加し、県南部の自治体と連携して様々な文化イベント等の広報や交流に取り組んでいきます。</p> | 指標：①参加者数、②連携事業 | | | |
| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 次年度への課題 |
| ① 12,000人 (新型コロナウイルスの影響を考慮) ②1事業 | ① 10,556人(視聴回数789回) ②1事業 | ・まにわ映像カレッジは、コロナウイルス感染症の影響により講演会を中止し、講座受講もオンライン形式に変更した。9回の受講クラスに対し、参加者63人で延べ視聴回数は789回。映画づくりワークショップ延べ25人。完成試写会に48人。 ・第18回おかやま県民文化祭に13のイベントを開催した。延べ10,420人の参加。 | 「まにわ映像カレッジ」として行った初年度であったが、オンライン形式の参加者に真庭市民や大学生以下の若い世代がもっと多く参加するよう工夫することが必要。 | |

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| <p>●ホストタウン事業</p> <p>・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が2021年7月・8月に延期となったことから、昨年度に引き続き馬術競技の強豪国であるドイツの「ホストタウン」として、ドイツや馬術の関連事業やオリ・パラ関連事業を実施して東京2020大会に向けた機運醸成を図ります。また、聖火リレーの開催も延期となったことから聖火リレーの完全な形での実施に向けた準備を進めます。</p> <p>・東京2020オリンピック競技大会の出場を目指す地元の原田喜市選手を馬術連盟など関係団体とも連携し、地域をあげて支援する機運を高めていきます。また、中四国地方随一の馬術競技場である蒜山高原ライディングパークを活かし、蒜山地区での馬術振興に取り組み、引き続き蒜山を「馬術」のメッカにすることを目指していきます。</p> <p>・共生社会ホストタウンの登録をきっかけにスポーツでの共生社会の実現に向けて、ユニバーサルデザインの施設整備や心のバリアフリーに向けて取り組み、あわせて誰でもできるパラスポーツの普及を行います。</p> | <p>指標：①ドイツ・馬術関連事業、②オリ・パラ関連事業、③ユニバーサルデザインの施設整備、④パラスポーツの普及にかかる事業</p> | | | |
| | <p>目標値</p> <p>①4事業 ②2事業 ③1件 ④2事業</p> | <p>実績値</p> <p>①4事業 ②2事業 ③1件 ④2事業</p> | <p>評価</p> <p>・コロナウイルス感染症の影響により、東京2020オリンピック競技大会が1年延期となったため、機運の持続や向上に苦心した。ホストタウン推進企画ポスターコンクール表彰式、その優秀ポスターを使用したドイツホストタウンのPRや国のドイツ連携企画の高校生が参加したオンライン交流会、親子乗馬体験などの事業を行い盛り上げを図った。</p> <p>・共生社会に向けた取組のきっかけとして、蒜山高原ライディングパークにユニバーサルデザインの「誰でもトイレ」を整備した。また子どもから高齢者、障がい者、誰もが参加し楽しむことができるユニバーサルスポーツフェスティバル2021を開催し、普及促進を行った。</p> | <p>次年度への課題</p> <p>東京2020オリンピック競技大会が1年延長されて、機運の盛り上げが停滞している感じが否めない。</p> <p>コロナウイルス感染症対策に細心の注意を払いながら、5月開催の聖火リレーを初めとし、大会に向けた取組を行っていくことが必要である。</p> <p>大会が終了した後にも、共生社会の実現に向けて、引き続きパラスポーツの周知、ユニバーサルスポーツの普及促進に取り組む必要がある。</p> |
| <p>●文化振興計画（R3～R7）の作成</p> <p>・真庭市の文化・芸術振興の計画である「真庭市文化振興計画」は真庭市総合計画と同じ5年ごとに作成しています。</p> <p>・第3次計画となる次期計画（R3～R7）を作成します。</p> <p>・策定委員8人を委嘱し、4回の委員会を実施します。</p> <p>・市民1000人を対象にアンケートを実施し、市民意識の動態を数値化して計画に反映させます。</p> <p>・真庭市の特徴や実態を捉えた特色ある計画の策定を目指します。</p> | <p>指標：計画策定</p> | | | |
| | <p>目標値</p> <p>1計画</p> | <p>実績値</p> <p>1計画</p> | <p>評価</p> <p>・真庭市文化芸術推進計画検討委員会の委員を、文化、音楽、映画、教育、障がい者アート、学校など各方面の関係者から意見聴取を行い意見を取り込み、推進計画を策定した。</p> | <p>次年度への課題</p> <p>・計画を市民に周知させるとともに、実践していく工夫が必要となる。</p> |